

今年の北海道は夏らしい天候がわずかしかない、おかしな天候でした。そんな中、天候の良い休日に『ニセコ昆布温泉』に出かけてまいりました。

ニセコは通り過ぎるばかりでしたので今回はゆっくりと散歩に出かけました。第一の目的は熱気球に乗ることで、以前から一度乗ってみたいと思っていました。今回は定置式で25mまで上昇、3分程の体験でしたが夢が叶いました。

ガス点火時の熱風は熱いのですが、天候も良く、空中から見るニセコは素晴らしい景色でした。その勢いで近くにあるゴンドラにも乗り込みニセコアンスプリの1000mの展望台へも出かけ、自然の山を満喫してきました。展望台の近くにパラグライダー発着場所があり、未経験者でも飛べるタンデムフライトが出来ましたがさすがに勇気がなく諦めました。

帰りにニセコ駅に寄りましたが駅前はさびしい感じでした。真狩の道の駅には細川たかし像が飾ってありました。さすが真狩村のスターですね。最近ではニセコでも比羅夫温泉の辺りでは開発で街中がオシャレになっており、驚きました。

札幌営業所(所長:利川 光浩)

今月は銀座にある日産ギャラリー『NISSAN CROSSING』に立ち寄ってみました。不定期とはいえ銀座に行くことふらっと入ってしまうような、ふんわりとした雰囲気です。現在1Fギャラリーには『アリア』と『フェアレディZ』が展示されていました。

アリアは最先端の自動車という恰好で、間近で見ると更に外装内装ともに洗練された印象が際立ちます。一度運転してみたいですね。

もう1車種はフェアレディZ。『Z』という名の方が馴染みますが、こちらは新旧『Z』が共演し、人だかりができていたことから人気は薄れていないなと思いつつ、ぐるっと一回りしてギャラリーを後にしました。私は格好良さとして旧型に魅力を感じました。新旧『Z』どちらも魅力ある車ですね。

東日本物流センター 東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-



朝夕日ごとに涼しくなり、秋の気配を感じるようになりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。気温差で体調を崩すこともありますので、くれぐれもご自愛ください。

さて先日ですが、山口県下関市にある唐戸市場に行ってきました。九州と本州をつなぐ関門海峡のそばにあり、観光スポットでも有名な魚市場です。前回はかれこれ4、5年前のコロナ禍になる前でしたので、今回は人が少ないであろう昼からの訪問です。

唐戸市場と言えばお寿司です。市場内には『活きいき馬関街』といって、露店にお寿司が並ぶイベントが大人気。市場内の一角に露店が軒を連ね、陳列されているお寿司はどれも新鮮でどれも美味しそうです。また露店によってネタの大きさも違うので、無駄に行ったり来たり…。最後は露店を何度も通りすぎる私に「お客さん、もうウチで買っていかんね?」と店員さんに声をかけて頂いたお店で買わせて頂きました(笑)

ちなみにコロナ禍以前は並べられているお寿司を自分でトレイに入れていくスタイルでしたが、今は店員さんがトレイに入れてくれるスタイルに変わっているので、安心してお寿司を選ぶことができます。またお寿司だけでなく、下関で有名なフグなども楽しめます。次はしっかりとお腹を空かせて、チャレンジしてみたいと思います。

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)



皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は富山県高岡市の『高岡銅器』を紹介いたします。

高岡銅器は富山県高岡市で作られる銅器の総称で、全国銅器生産額の約95%を占めており、釣鐘などの大きなものから、銅像などの細かい作品まで多彩な鑄造技術をベースに作られています。高岡市での生産がここまで多いとは、初めて知りました。

高岡銅器の起源は、加賀藩士の前田利長が高岡城へ入城して高岡の町を開いた際に、町の繁栄を考え、鑄造師を呼び寄せたところから始まったようです。この鑄造師たちは、関所の通過を自由にするなどの特権が与えられていたそうです(この鑄物師は特権階級だったのでですね)。

当初は日用の鍋・釜といった鉄器を作っていました。その後、需要にこたえる形で銅器生産、他金物生産に移行していきました。明治時代になると廃刀令で職を失った刀職人なども銅器生産に加わり、日用品から美術工芸品の生産へと変化し現在に至ります。

近所のお寺の釣鐘も高岡銅器では?と思いつつ見てみるのも良いかもしれません。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

今年の夏はコロナ3年目にしてやっと制限が無い季節。とはいえ第7波の影響もある為、お盆は帰省を控え、天候も良くなかった事もあり、ほとんど自宅で過ごしてしまいました。

さて、大阪夏の風物詩の『なにわ淀川花火大会』が3年ぶりに復活。8月27日土曜に開催されました。今回は会場である淀川の両岸のうち梅田側が工事の関係で封鎖、十三会場側のみ観覧席が設けられました。

そのため十三会場側では昼間から人手が多く、密な状態を予想。とても近くには行けないと判断し、車から見る様にしました。

久しぶりの花火は車から見ても感動もの。前が進むと脇見運転となるため見られませんが、『ドン、ドーン』という音は楽しむことができ、夏の最後に感動をもらいました。

青と白の花火が続き、とてもキレイ。後で録画していた番組で調べてみたところ、その花火は音楽に合わせて打ち上げるもので、YOASOBIの『群青』のメロディに合わせて打ち上げられていました。さすがに音楽は聞こえなかったのですが、今度は音楽も楽しめる有料観覧席で見てみたいですね。

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

先日マディーナ、メッカへ巡礼にいきました。5年前、15年前にも巡礼に行き、今回は3回目です。

巡礼中、一日5回のお祈りをできるかぎりモスクで行うようにしていました。自分の参加したグループのメンバーは老若男女合わせて45人いました。マディーナでは毎日モスクでお祈りをして、時間が空いているときに歴史ある観光スポットへ行きました。そのスポットではガイドの方が色々説明してくれました。

4日間ほどマディーナに滞在し、それからメッカへ移動しました。マディーナからメッカへは400kmほど離れており、電車で約2時間、バスでは約4～5時間です。今回はバスでメッカに行きました。

マディーナを16時に出発し、途中砂漠の真ん中で休憩を挟み、メッカに到着したのは夜23時でした。ホテルにチェックインしてモスク内にあるカーバを巡礼にいきました。7回巡礼、それからサファールからマルワまでを7往復し、ザムザムの水を飲み、最後に行事の締めとして髪の毛を少し切りました。行事は2～3時間ほどで終わりましたが、ホテルに戻れたのは朝3時でとても疲れました。

もちろん朝や昼でも巡礼は可能ですが、朝や昼は巡礼する人が多く、気温も40度近くなりとても暑くなるためというのが、夜の巡礼を選択した理由の一つです。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhyar)

～お婆ちゃんが発明?～

木綿、絹ごし、油揚げ、厚揚げ、がんもどきetc。豆腐は日本でも数多くの種類がありますが中国ではさらに多く、驚くほど豊富です。それらを使った料理も様々で、豆腐好きの日本人に好まれるものがたくさん存在します。

加圧し水分を抜き、干して作る『豆腐干』や麺のように細く加工した『豆腐絲』、一度凍らせたのち乾燥させる『凍り豆腐』、『湯葉(豆腐皮)』や、さらには発酵させた『腐乳』など豆腐の世界もかなり深そうです。

日本人に最もおなじみの麻婆豆腐は四川省の料理です。日本では市販の麻婆豆腐の素を使えば手軽にできますが、本場、四川の麻婆豆腐は初めて食べる日本人にとっては衝撃かも知れません。豆板醤の深みに加え、四川料理ならではのたっぷりの唐辛子、そこにさらに山椒の実がふんだんに入ります。これで唐辛子の辛さと山椒のピリピリで汗がタラタラです。食べるにはちょっと気合いがありますが、慣れると深みのある旨さにやみつきです。

麻婆豆腐の歴史は意外にも短く、およそ100年前の清の時代に誕生したそうです。成都で若くして未亡人となったチャオチャオさんは生計を立てるために料理屋を始め、彼女が作る豆腐料理が地元で大評判となりました。顔にはあばた(=麻)があり、麻のあるおばさん(=婆)が作る豆腐料理で、麻婆豆腐と呼ばれるようになったそうです。麻という名のお婆ちゃんが発明したわけではなかったのですね。

KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

地球温暖化の影響でしょうか?今年も世界中で異常気象が続いていますね。カリフォルニアでは今までどちらかと言うと他人事のようにでしたが、最近は熱波の到来により、非常に暑い日が続いています。

さて今月はカリフォルニアの涼しいビーチ沿いにあるゴルフ場をご紹介します。ゴルフだけではなく、ハイキングやマリンスポーツなども有名な場所なのでご存知の方も多いかもかもしれませんが…念願だった『トリー・パインズ・ゴルフ・コース』に行ってきました。場所はサンディエゴ近郊のラホヤ地区。サウスコースとノースコースの2つ、計36ホールあります。今回プレーしたのは海岸沿いのサウスコースです。断崖の上にゴルフコースがあるイメージで、多くのホールからは太平洋が見え、景観を楽しむ事のできる最高のゴルフコースです。

このコースで2008年に全米オープンが開催され、その際タイガー・ウッズが活躍したことを覚えている方も多いのではないのでしょうか?!その時の彼は19ホールに及ぶプレーオフでの死闘を制し、3度目の優勝でトリプルグラントスラムを達成しました。最近では2021年の全米オープンも開催され、日本からは松山選手をはじめ石川遼選手などが参加しました。

とにかく景色が最高で海から吹く風も気持ちがいいため、スコアや暑さを忘れてしまうほど快適でした。因みにこのコースは他の有名なゴルフ場である『ペブルビーチコース』と同様に会員登録不要なパブリックコースですので、予約さえできれば誰でもプレー可能な点が特徴です。プレー費は他と比べると高く、3倍以上かかりますが、地元の住民は通常の価格(日本円で約11,000円)でプレーする事が可能です。

KCS(アメリカ)(COO:板垣 仁志)

新型コロナウイルス感染拡大防止の制限により、オランダの倉庫を訪問することができず、3年経ちました。ですが、やっと今月に1回出張することができました。

現在は補助金が減りつつありますが、以前は政府からの補助金が多かったこともあり、オランダでは電気自動車(EV)が非常に人気でした。テスラもまた、スヘルトーヘンボスのコーヨーラド倉庫から車で約40分の場所に大きな工場を構えています。しかし、テスラはこの工場をドイツのベルリンにある新しい工場に移すそうでとても残念です。

オランダではEVの運転はとても便利で、小さな村にも充電スポットがたくさんあります。一部のスーパーマーケットでは、30分間の無料充電も提供していますが、この施設を使用する車両は多くないので、列に並ぶ必要はありません。

オランダは駐車場がなかなか見つからない国でもありますが、政府が道路脇に充電設備を備えたEV専用の駐車場をたくさん用意しているので、EVを運転するならそれほど問題にはなりません。

EVを運転することは様々な特典があり、このタイプの車を宣伝するのに役立ちます。今後、オランダ政府がどのように人々にインセンティブを与え続けるかを注視していきたいと思っています。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

近頃オランダではノンアルコールビールの人気が高まっており、品揃えが増えているのも不思議ではありません。すべての誇りあるビールブランドは、現在、アルコールを含まないビールを提供しています。

ちなみにアルコールフリーといっても、ビールにアルコールが全く入っていないというわけではありません。EUでは、アルコール飲料の定義となる度数を1.2%以上としています。そのためオランダではアルコール度数0.1%以下の場合、『アルコールフリー』または『0.0』と呼んでいます。他の多くの国では、0.5%以下を『ノンアルコール』と定義しています。オランダではドイツの『フランツィスカーナーのアルコールフリービール(0.5%)』がノンアルコールビールとして販売されることもあります。

オランダだけでなくヨーロッパではノンアルコールビールの人気が高まっています。2020年には、前年よりも約20%多く生産されました。さらに2021年のEUにおけるノンアルコールビールの総生産量は、17億ℓ弱に達しました。ドイツがノンアルコールビール最大の生産国であり、4億ℓを生産しています。スペインは2021年に2億6,400万ℓのノンアルコールビールを生産し、生産量第2位。オランダは総生産の約8分の1となる2億200万ℓを生産し、生産量として第3位となります。

オランダがノンアルコールビール主要生産国であることは大した驚きではありません。オランダは、何年にもわたってアルコールビール最大生産国の1つで、生産量は、EU内でポーランドに次ぎ第4位だからです。

2021年、前年と同様、オランダは最大のビール輸出国でした。ヨーロッパのビールは、主にイギリスとアメリカに輸出されており、EUで生産されたビールの約41%がそこへ行き着きます。

KIO(オランダ)(Marvin de Laat)